

高等学校における展開例



第1学年「現代社会と健康」現代の感染症とその予防 (保健体育科 科目 保健)

1. 単元名 現代の感染症とその予防

2. 単元の目標

- (1) 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解することができるようにする。(知識)
- (2) 現代の感染症とその予防について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

小学校体育科保健領域で、病原体が主な要因となって起こる病気の予防について学習している。また、中学校保健体育科保健分野では、病原体が主な要因となって発生すること、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることを学習している。それらを踏まえて、ここでは、感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを学習する。また、感染症の予防について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにすることが必要であることを学ぶ。

本単元では、感染症の予防について理解させることにより、生涯を通じて感染症の予防に必要なことを考えることができるようにしていきたい。

4. 単元計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・学習活動
第1時	◆現代の感染症	○	○		○感染症について、様々な背景によって流行に影響していること、新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られること、さらに新たな感染症の出現について。 ・感染症の種類と歴史について確認する。 ・学習のねらいを知る。 ・新興感染症や再興感染症の発生や流行について知る。 ・感染症が生活に与える影響について話し合う。 ・本時の学習のまとめをする。
第2時	◆感染症の予防	○			○感染症の予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。 ・前時の学習内容を確認する。 ・学習のねらいを知る。 ・感染症予防のための社会的対策及び個人の取組について知る。


				<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の情報が溢れている世の中で、予防法等の情報を正しく選択するために必要な内容について知る。 ・本時の学習のまとめをする。
第3時	◆感染症の予防②		○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症の予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。 ○交通網の発達により、短時間で広がりやすくなっていること。 ・新型コロナウイルス感染症の流行について、資料から背景を想像する。 ・学習のねらいを知る。 ・新興感染症の感染リスクを軽減するための取組について整理し、意見を個人の取組と社会的な対策に分類する。 ・今後、これまで認識されていなかった感染症が発生した場合、自分がやるべき感染リスクを軽減するための予防行動をまとめる。 ・本時の学習のまとめをする。
第4時 (本時)	◆エイズ・性感染症		○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ○エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について。 ・学習のねらいを知る。 ・エイズの発生動向を踏まえ、原因と人々の意識について知る。 ・性感染症の原因を理解し、現在の状況を知る。 ・エイズ及び性感染症の予防に対して、個人の行動選択や社会の対策について理解する。 ・HIVに感染しないための予防方法について考え、説明する。 ・本時の学習のまとめをする。

5. 展開例(4/4)

(1) 本時の目標

- ・エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解できるようにする。(知識)
- ・感染症の予防について、学習したことや健康に関する資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明することができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入	<p>1. 本時の学習課題について考える。</p> <p style="background-color: #FFDAB9;">病気「X」は何だろう。</p> <p>病気「X」は何だろう</p> <p>1 病気「X」は、体の抵抗力を弱らせます。</p> <p>2 病気「X」は、今のところ完全に治す薬はありません。</p> <p>3 病気「X」は、発症まで10年かかることもあります。</p> <p>4 病気「X」は、新規報告者数が年々増加傾向です。</p> <p>5 病気「X」は、20代と30代の若者層に多いです。</p> <p>6 病気「X」は、血液や性的接触により感染します。</p> <p>7 病気「X」は、予防することができます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の提示する内容から病気「X」について考えることにより、本時の学習内容に興味をもって参加できるようにする。 ○思いつく病名について、自由に発表させる。 ○病気「X」は、エイズであることを知らせる。 ○エイズは正しい知識をもち、適切な注意を払うことにより、感染から身を守ることができる病気であることを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> <p>今、エイズについて学ぶことは、大変重要なことであることを伝えましょう。</p> </div> 

2. 本時のねらいを知る。

○学習課題を提示し、本時のねらいを押さえる。

エイズとその予防について考えよう。

3. エイズの疾病概念、感染経路について理解する。

エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス（HIV）であること。エイズの疾病概念と感染経路について。

○エイズはHIVというウイルスの感染によって起こる病気であること、三つの感染経路及び発症まで10年以上かかる場合があることを説明する。

○HIVの感染力や他人に感染させる可能性について考えさせる。

○医療の進歩により、体内のHIVの増殖を抑える治療薬が開発され、普通の生活ができるようになっているが、完全に治す薬は現在ないことを伝える。

○資料を提示し、日本のHIV感染者とエイズ患者の新規報告数から日本の動向を確認する。

4. 日本のHIV感染者（エイズ患者含む）の動向を知る。

日本のHIV感染者数（エイズ患者を含む）、感染が多い感染経路、感染が多い年齢層について考えてみよう。

・資料を基に考える。

エイズの主な感染経路は性的接触であること。エイズ患者は年々増えており、若者に多く、社会問題になっていること。

○日本においては、一日平均1.3人がエイズを発症し、一日平均3人がHIVに感染していることを伝える。

○資料から約9割を占める感染経路を予想させ、答えについて、自由に発表させる。

○前時で学習した性感染症の学習を踏まえながら、性的接触による感染がほとんどであることを確認する。

○感染者の多い年代を予想させる。

○HIV感染者のおよそ2～3割が20歳代及び30歳代の若者層であることを確認し、自分たちも人ごとではないことを知らせる。

○ワークシートを配布し、これまでの学習を基に、HIVに感染しないための予防方法について、自分の考えをワークシートに記入させる。

○個々に記入後、4名程度のグループで発表し合わせ、その後幾つかのグループに発表させることにより、考えを深められるようにする。

5. 本時の学習を基に、エイズの予防方法について考える。

20代のあなたが考えるHIVに感染しないための予防方法を「HIV」の言葉を使って、説明しなさい。

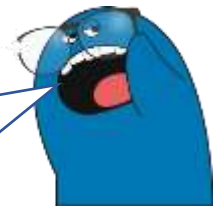
<予想される反応>

・HIVやエイズについての正しい知識をもって、感染しないようにする。

・エイズは、HIVに感染して発病する病気なので、感染経路である性的接触をしない。

・HIVに感染しているか、保健所で匿名・無料の検査を受けて、早期発見・早期治療につなげる。

グルーピングや雰囲気作りを工夫し、個々の意見を大切にしながら、活発な話し合い活動を促し、より多くの意見を引き出しましょう。



◆【思考・判断・表現】

感染症の予防について、学習したことや健康に関する資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見付たり、選んだりするなどして、それらを他者に伝えていく。【観察・ワークシート】

○エイズや予防について正しい知識をもつこと、正しい判断力をもつことが大切であることを伝える。

○主な感染経路は性的接触であることから、感染を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であることにも触れる。

6. その他の性感染症

まとめ

6. 本時の学習のまとめをする。
・本時を振り返るとともに、教師のまとめの話を聞く。

エイズは、薬の開発のおかげで先進国では「死の病気」ではなく「生涯付き合っていく病気」になっています。

しかし、現在、HIVを体内から完全に排除できる治療法はありません。これまでの授業で『知識のワクチン』を手に入れました。

正しい判断力をもって、HIV・エイズから自分やパートナーの体を守っていきましょう。

予防方法を身に付けることが必要であること。

○ワークシートの記入から、知識・理解の定着を確かめ、必要に応じて指導する。

○HIVの感染は、感染経路を遮断することで予防できることを確認する。

○エイズは、身近に迫っている問題であり、予防方法を身に付けることが必要であることを伝え、まとめとする。

エイズは無用に恐れる病気ではないことや、今後の生活に希望がもてるメッセージを伝えましょう。

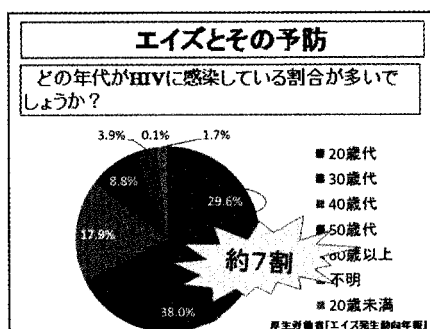
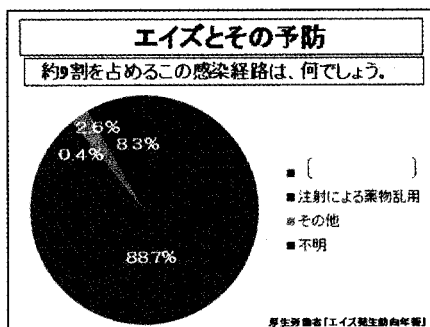
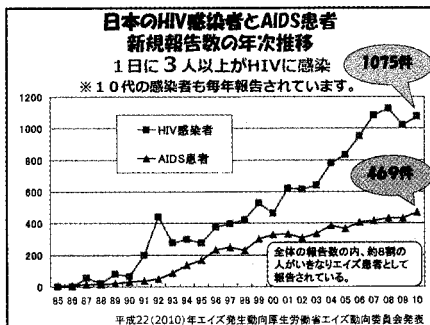


◆【知識・技能】

エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。【観察・ワークシート】

(3) 資料等

【資料】



【ワークシート】

「健康な生活と疾病の予防」ワークシート (エイズの予防)

3年 組 No. 氏名

20代のあなたが考えるHIVに感染しないための予防方法を「HIV」の言葉を使って、説明しよう。

【自分の考え】

【友達の考え】

→付けたし・直し

【まとめ】

エイズの病原体(感染源)は、()であり、その主な感染経路は、()である。その増加傾向と若者の感染が多いことが問題になっていることから、私たちは()を身に付ける必要があります。

感染症の予防3原則とは、①()をなくすこと、②()を遮断すること、③()を高めることです。

6. 他教科等との関連

(1) 特別活動との関連

本単元の『「現代社会と健康」性感染症・エイズとその予防』は、特別活動のホームルーム活動の内容項目(2)オ「生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立」と関連付けて指導することが考えられる。例えば、題材を「感染症の予防を考えよう」と設定し、本単元で身に付けた知識をもとにホームルーム内で話し合い、個人としての意思決定を経て、実践への意欲付けを図ることができる。

(2) 総合的な探究の時間との関連

総合的な探究の時間において例えば、生徒の興味・関心に基づく課題として、健康：心身の健康とストレス社会の問題（健康）」を探究課題として設定し、横断的・総合的な学習として、保健での『「現代社会と健康」性感染症・エイズとその予防』に関する学習内容との関連を図った課題の解決や探究活動を行うことが考えられる。

参考：改訂「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引

参考：「生きる力」を育む中学校保健教育の手引

文部科学省

高等学校における展開例



第1学年「青年期の自立と家族・家庭」(家庭科 科目 家庭基礎)

1. 単元名 「青年期の自立と家族・家庭」

2. 単元の目標

- (1) 生涯発達の視点で青年期の課題を理解しているとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。(知識及び技能)
- (2) 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために、実践しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できるようにする。また、男女が協力して家庭を築くことの意義や、現代の家族・家庭の機能や特徴について歴史的、文化的、社会的変化との関連から理解を深め、考察できるようにすることをねらいとしている。その際、自立した生活を営むためには、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任を持って行動することが重要であることを認識できるようにする。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯発達の視点で青年期の課題を理解しているとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。	家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために、実践しようとしている。

5. 指導計画

時	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容・学習活動
第1時	◆青年期の自立			○	○青年期の発達課題である自立や生活課題に対応した生き方を考え、意思決定の重要性について理解し、これからの自分について考える。 ・自分の日常生活を振り返り、自立について自己理解を深めるために自立度チェックをする。 ・自立するために必要なことを考える。 ・多様な価値観があることに気づき、意思決定を行う重要性について理解する。
第2時	◆家族・家庭とは何だろう		○		○時代とともに変化する家族・家庭の特徴や機能について理解し、現代の家族・家庭に関する課題について考察する。 ・家族には明確な定義はないため、人によってイメージする範囲は多様であることを理解する。 ・現代の家族が抱える課題について、社会の変化と関連付けて考える。
第3時	◆家族・家庭と法律	○			○家族・家庭に関する法律や制度について理解する。 ・旧民法（明治民法）と現行民法の違いや、時代に応じた民法の改正について理解する。
第4時 (本時)	◆これからの家庭生活と社会		○	○	○生活していくために必要な家事労働と職業労働の特徴、男女の働き方の現状を理解し、男女が協力して家庭や社会を築く方法を考える。 ・性別役割分業について考える。 ・家庭生活や社会での男女の協力について知る。 ・ワーク・ライフ・バランスを意識した自分の生き方を考える。

6. 展開例 (4 / 4)

(1) 本時の目標

- ・男女が協力して家庭や社会を築くことの意義や重要性について考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価									
主な学習内容・学習活動	男女が協力して家庭や社会を築くことの意義や重要性について考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	<p>○授業の導入時に結果を示せるよう、家事育児のタスク表の色分けについて、ICTを活用して配信し事前に実施させる。夫や妻が担当する家事労働の特徴や傾向を挙げさせることにより問題点に気付かせる。</p> <p>※家事育児のタスク表 日常で行う家事の具 体を表にまとめたもの</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">カーテンを 開ける</td> <td style="text-align: center;">ベッドを 整える</td> <td style="text-align: center;">新聞を 取る</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">お茶を 作り置き する</td> <td style="text-align: center;">靴立を 有える</td> <td style="text-align: center;">宅配食材を 注文する</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ゴミを集め、 分別する</td> <td style="text-align: center;">ゴミを 捨てる</td> <td style="text-align: center;">哺乳瓶を 消毒する</td> </tr> </table> <p>(例) 時間帯別に示したものの一部</p>	カーテンを 開ける	ベッドを 整える	新聞を 取る	お茶を 作り置き する	靴立を 有える	宅配食材を 注文する	ゴミを集め、 分別する	ゴミを 捨てる	哺乳瓶を 消毒する
	カーテンを 開ける		ベッドを 整える	新聞を 取る							
お茶を 作り置き する	靴立を 有える	宅配食材を 注文する									
ゴミを集め、 分別する	ゴミを 捨てる	哺乳瓶を 消毒する									
生活を支える家事労働と職業労働についての 特徴を確認する。											

<p>性別役割分業意識について、クラス内の意識と内閣府の調査の結果をみて、現状を理解する。</p>	<p>○内閣府の意識調査から男女協力への意識が高まる傾向がある一方、現状では男性の育児休業の取得率が低いことや、20～30代の女性の労働力人口比率が低くなっているなどのことから、家事の負担が女性に偏りがちであることが読み取れることを伝える。</p>
<p>ある家族の生活時間の例について、それぞれの立場から考えた課題を見つけ、改善点を考える。</p> <p>男女が協力して家族の一員としての役割を果たし、共に家庭生活と社会生活を両立するために大切なことは何かをグループで考察し、発表する。</p>	<p>○「共働き夫婦と子供」の家族の設定で、各グループ3～4人でロールプレイを実施する。親や子供の役になって、自分の希望する時間の使い方と役割分担の工夫について考えさせる。</p> <p>○ Google Jamboard を使用し、各自の意見を同時に書き込みグループの集約の時間短縮をしたり、発表時に画面共有して、まとめた内容を提示したりできるようにする。</p>
<p>各班の発表を踏まえて、改めて個人で男女が協力して家庭や社会を築くことの意義や重要性について考察したことをワークシートに記入し提出する。</p>	<p>○ワーク・ライフ・バランスの視点で考えることを伝える。</p> <p>◆【思考・判断・表現】 男女が協力して家庭や社会を築くことの意義や重要性について考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</p> <p>◆【主体的に学習に取り組む態度】 単元を通して学んだことを、どのように生活に生かしていくか考えようとしている。</p>

(3) 資料等

内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査」、総務省「労働力調査」
厚生労働省「保育士の現状と主な取組」、「育児休業取得率」

高等学校における展開例



第2学年「生涯を通じる健康」生涯の各段階における健康 (保健体育科 科目 保健)

1. 単元名 生涯の各段階における健康

2. 単元の目標

- (1) 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解できるようにする。(知識)
- (2) 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを説明することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて説明するなどの学習活動に主体的に取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

生涯を通じる健康については、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深める指導を行う単元である。生涯の各段階においては、健康に関わる様々な課題や特徴があることから、生涯にわたって健康に生きていくためには、生涯の各段階と健康との関わりを踏まえて、適切な意思決定や行動選択及び社会環境づくりが不可欠であることを理解させるとともに、生涯の各段階で、労働における健康課題の解決に向けて思考・判断・表現できる資質・能力を育成する必要がある。

そのため、思春期、結婚生活、加齢の各段階において、健康、行動、生活などに課題や特徴があること、また労働の形態や環境の変化に伴った健康及び安全の課題があること、それらを踏まえ、自他の健康管理、安全管理及び環境づくりを行う必要があること、労働に関わる社会資源などを適切に活用することなどを中心に学習していく。

なお、結婚生活と健康では、「妊娠のしやすさを含む男女それぞれの生殖に関わる機能については、必要に応じて関連付けて扱う程度とする」と説明が新たに加わった。

4. 単元計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・ 学習活動
第1時	◆思春期と健康				<p>○思春期における心身の発達や性的成熟に伴い健康課題が生じること、自分の行動への責任や異性への理解や尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処が必要であること。</p> <p>・ 思春期の定義を確認する。 ・ 学習のねらいを知る。 ・ 思春期の健康に関わる問題について確認する。 ・ 思春期の性に関わる課題を考える。 ・ 自分の行動への責任や異性への理解や尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処について知る。 ・ 本時の学習のまとめをする。</p>

第2時 (本時)	◆結婚生活と健康	○	○	○結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣などが関わること、結婚生活を健康に過ごすには自他の健康に対する責任感などや母子の健康診査等の保健・医療サービスの活用が必要であること、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について。
				<ul style="list-style-type: none"> ・初婚年齢と初産年齢の推移について、傾向を確認する。 ・学習のねらいを知る。 ・受精・妊娠・出産とそれに伴う健康課題を確認する。 ・結婚生活における各健康課題の解決方法を、グループ内で意見を共有しながら話し合い、発表する。 ・本時の学習のまとめをする。
第3時	◆加齢と健康	○	○	○中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うことなどが関係すること、高齢期には、加齢に伴い、変化する心身の機能や形態には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まり、健康の回復が長期化する傾向にあること、高齢社会では、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であること。
				<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを知る。 ・加齢に伴う健康課題について確認する。 ・中高年期を健康に過ごすための個人の取組について確認する。 ・高齢社会における社会的対策について確認する。 ・本時の学習のまとめをする。

5. 展開例(2/3)

(1) 本時の目標

- ・ 結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解できるようにする。(知識)
- ・ 結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明できるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入	1 初婚年齢と初産年齢の推移について傾向を確認する。 初婚と初産の年齢には、どのような傾向があると思いますか。 <予想される反応> ・結婚年齢(初婚年齢)が高くなっている。 ・出産(初産)年齢が高くなっている。	○資料「厚生労働省_人口動態統計:平均初婚年齢・母親平均出生時年齢推移」で、結婚生活において出産を考える場合、妻の初婚年齢と出生時年齢にはどのような関係があるかを、個人で確認させ、その後、生徒間で共有させる。 ○妻の晩婚化は出産(初産)年齢の上昇に大きく影響していることを説明する。
展開	2 学習のねらいを知る。 受精、妊娠、出産に伴う健康課題を理解し、結婚生活を健康に過ごすためには何が必要かを考えてみよう。	○本時の内容を説明し、ねらいを理解させる。

3 受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解する。

晩婚化が進む中、結婚意志がある未婚者が希望する子ども数が減少傾向にあるのはなぜでしょう。この背景には、心身の健康に対するどんな不安、心配や悩みがあると思いますか。

<予想される反応>

- ・つわりや陣痛が怖い（いやだ）
- ・早産・流産
- ・子どもが欲しいけれど、妊娠できない
- ・高齢出産はリスクが高い
- ・夫婦のストレスの解消法
- ・信頼できる病院があるか

結婚生活において、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣などが関わること。

○資料「国立社会保障・人口問題研究所_第15回出生動向基本調査（2015年）：「子どもについての考え方」をもとに発問する。

○心身の健康に限定することを説明し、個人で予想させ、その後、生徒間で共有させる。

○医学的には男性、女性ともに妊娠・出産には適した年齢があることが指摘されており、30歳半ば頃から、年齢が上がるにつれて様々なリスクが相対的に高くなるとともに、出産に至る確率が低くなっていくことが指摘されていることを説明し、結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣などが関わることを押さえる。

◆【知識・技能】

結婚生活における受精・妊娠・出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣などが関わること、結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感などや母子の健康診査等の保健・医療サービスの活用が必要であること、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について、理解している。（観察・ワークシート）

思春期と健康で学習した内容「思春期の性に関わる課題」を振り返りながら、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について触れることも重要です。



4 母子保健法から、妊娠・出産に関わる健康課題の解決方法を考え、グループ内で意見を共有しながら話し合い、発表する。

我が国の母性・乳幼児の健康の保持・増進を目的として制定された「母子保健法」には、妊娠した者は、速やかに妊娠の届出をしなければならないと規定されています。

提出する物は何だと思いますか。

<選択肢>

- ・住民票記載事項証明書（不正解）
- ・妊娠証明書（不正解）
- ・妊娠届出書（正解）

また「母子保健法」には、妊娠の届出をした者に対して、母子健康手帳を交付しなければならないと規定されています。交付場所はどこだと思いますか。

○ここまでの学習を受け、我が国の妊娠・出産や育児に対する政策や、地方自治体が提供するサービスを学ぶことを伝える。

○提出する物、交付場所の順で生徒に挙手させたいうえで、それぞれで解答を行う。

各自の挙手後にグループ内の意見交換を行うなど、自分以外の多様な考えを共有することも大切です。



○交付には妊娠届出書が必要であること、この妊娠届は自己申告制であるが、医師の診察を受けていない者には市区町村が妊娠した者に対して受診を指導することを説明する。

○妊娠した者が住んでいる市区町村長に妊娠届出書を提出すると、その市区町村から母子健康手帳が交付されるとともに、必要な保健指導を受けることができると説明する。

<選択肢>

- ・産婦人科医（不正解）
- ・都道府県（不正解）
- ・市区町村（正解）
保健福祉センター、母子保健センター、
〇〇市：〇〇すこやか相談所など

最近では、自治体によっては父子手帳も発行されていることなどに触れて、夫の妊娠・出産への理解と育児への参加・協力の重要性について説明すると良いでしょう。



現在は、市町村が交付する母子健康手帳の記録をデジタル化することで、一人一人に最適な情報を配信し、家族の積極的な健康管理を促し、妊娠・出産・育児期を継続的にサポートできるアプリがあることにも触れるとよいでしょう。

これまでの学習で理解した、結婚生活における受精・妊娠・出産に伴う心身の健康に対する不安、心配や悩みを緩和したり、支援したりするものには、どんなものがあると思いますか。

<予想される反応例>

- つわりや陣痛が怖い、早産・流産、不妊、高齢出産など
- 医者などの診察や専門家の助言
- 夫婦のストレスの解消法
- 話し合い、親や友人への相談
- 信頼できる病院
- 関係・支援サイトでの情報収集や家族への相談

結婚生活において、受精・妊娠・出産とそれに伴う心身の健康に対する不安、心配や悩みを軽減し、健康に過ごすためには、誰が、どこが、どのように取り組めば良いかを考えてみよう。

<予想される反応例>

- 妻
 - ・体調管理をする
 - ・飲酒や喫煙をひかえる
 - ・困った時には相談したり受診したりする
- 夫など
 - ・喫煙をひかえる
 - ・妻の相談を聞く
 - ・妻に協力する
- 市区町村
 - ・困っている夫婦をサポートする
 - ・健診や相談窓口の情報をチラシやホームページで提供する

○母子健康手帳の内容には、妊娠や出産の経過から、小学校入学前までの健康状態、発育、発達、予防接種などの記録といった全国的に共通している部分と、妊娠中の注意点など、市区町村の任意で書かれる部分とがあることを説明する。

○妊娠届出書には、妊婦の生年月日を記入する欄が必ずあり（若年妊娠や高齢出産を把握できる）、また、多くの自治体の様式では、これまでの妊娠の結果を記入する欄もあるなど、この手続きには、妊娠した者、市区町村の双方に責任を伴うものであることにも触れる。

○付箋紙とワークシートを各グループに配布する。（付箋紙は1人20枚程度）

○配布後に、まずは自分の考えを付箋紙に書くこと、次に、各自の考えを班内で共有すること、他の人の意見を否定したり、自分の意見にしったりしないことを説明する。

ここでは、各自がここまでの学習で理解したことや思いつくことを、より多く書き出すことが重要で、可能性や良し悪しにとらわれないことを伝えましょう。

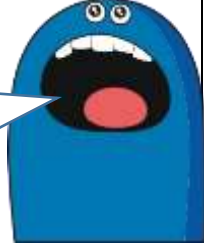


○各自の意見を出し合い、次の要領で、班内で共有させる。

- ・自分の意見にはなかった意見は、自分のワークシートに記入する。
- ・共有する中で思いついた意見をあらたに加えてもよい。

○各班の発表者は、話し合いの内容を簡潔にまとめ、班でそれらを「責任」「人間関係」「支援」「保健・医療サービス」の4つに分類し、班内で確認させる。その際、分類できないものは「その他」とすることを説明する。

○市区町村の広報（ホームページ）から、健康診査などの保健・医療サービスが行われていること、その利用と活用の必要性について説明する。

	<p>結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感などや母子の健康診査等の活用が必要であること。</p>	<p>○結婚生活を健康に過ごすためには、妻だけでなく、夫の妊娠・出産への理解と育児への参加・協力、周囲に相談や周囲の協力、地域・社会の妊婦への理解や環境づくり、医療・福祉の利用、保健所などの公的サービスの活用が重要であることを説明する。</p> <p>結婚生活において、心身の発達や健康の保持増進の視点から理解できるよう指導しましょう。</p>  <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している（観察・ワークシート）</p>
<p>まとめ</p>	<p>5. 本時の学習のまとめをする</p> <p>本時で学んだことを振り返り、妊娠・出産をむかえる夫婦が、結婚生活を健康に過ごすためには何が必要であるかを自分の言葉でまとめてみよう。</p>	<p>○学習内容を振り返り、学んだことの定着を図る。</p> <p>○学習活動を促す事例として、スポーツ選手の結婚、妊娠・出産や子育てについて、トピックスを紹介しながら、年齢や生活習慣の多様性と社会的課題について触れる。</p> <p>○机間指導中に、生徒がワークシートにまとめている内容を確認し、本時のまとめの中で活用する。</p>

(3) 資料等

① 板書計画

本時のねらい

- ・受精，妊娠，出産に伴う健康課題を理解し，結婚生活を健康に過ごすためには何が必要かを考えてみよう。

1 初婚・初産の傾向

- ・結婚年齢（初婚年齢）が高くなっている。
- ・出産（初産）年齢が高くなっている。

晩婚化は出産（初産）年齢の上昇に大きく影響している

2 受精，妊娠，出産とそれに伴う健康課題

- ・医学的には男性，女性ともに妊娠・出産には適した年齢がある
- ・30歳代半ば頃から，年齢が上がるにつれ様々なリスクが高くなる
- ・男性も加齢とともに妊娠率が低下する
- ・経済的理由、職業の選択や女性アスリートの活躍など

3 母子健康手帳

○市区町村（正解）

- ・保健福祉センター，母子保健センター

交付には妊娠届出書が必要

4 結婚生活を健康に過ごすために必要なこと

- 責任
- 人間関係
- 支援
- 保健・医療サービス

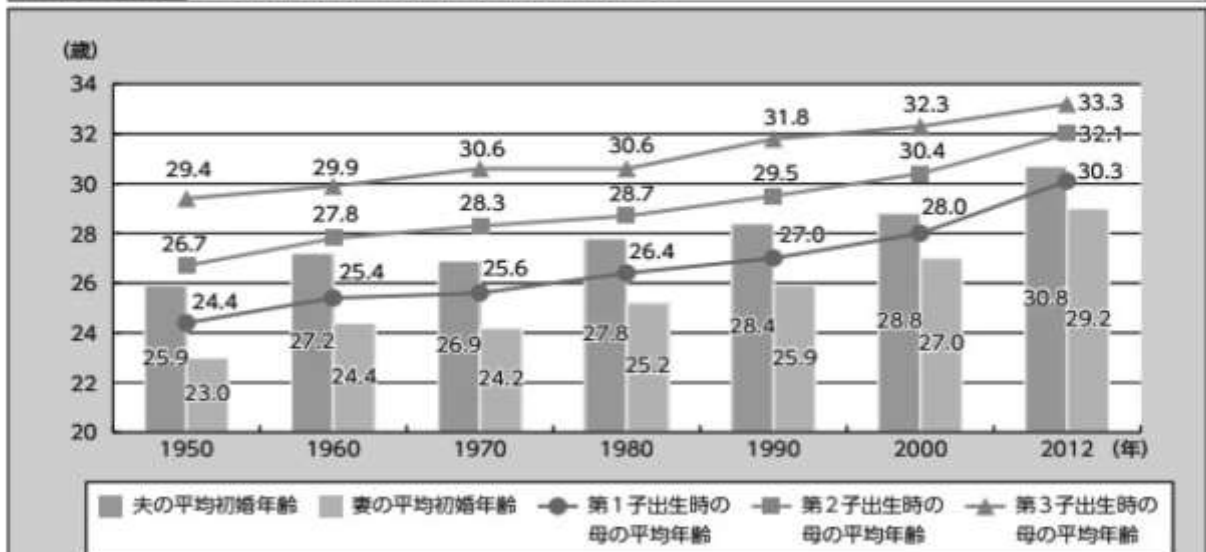
5 まとめ

② 資料（図表）

学習 1

「平成25年版厚生労働白書—若者の意識を深る—」の「厚生労働省「人口動態統計（図表2-2-3 平均初婚年齢・母親平均出生時年齢推移）」

図表 2-2-3 平均初婚年齢・母親平均出生時年齢推移



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」より厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成

(注) 2012年の数値は概数である。

学習 3

「平成25年版厚生労働白書—若者の意識を探る—」の第1部-第2章-第3節-5-(2)年齢と出産リスク等

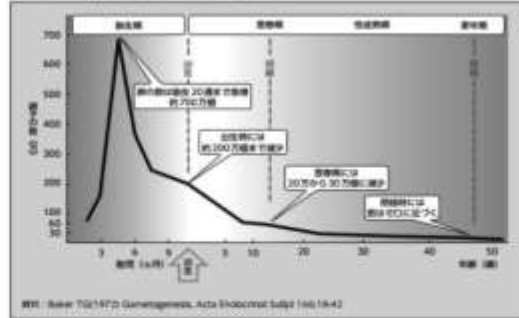
(2) 年齢と出産リスク等

医学的には男性、女性ともに妊娠・出産には適した年齢があることが指摘されており、30歳代半ば頃から、年齢が上がるにつれて様々なリスクが相対的に高くなるとともに、出産に至る確率が低くなっていくことが指摘されている。

男性の精子は思春期以降1日に数千万個作られ、日々、新しい精子が生まれるが、女性の卵子は、出生後新たに作られることなく、加齢とともに質、量ともに低下する(図表2-3-23)。このため、女性の自然に妊娠する力は30歳頃から低下する。さらに、35歳前後からは流産率も上昇するほか、妊娠高血圧症候群、前置胎盤の母体と胎児に与えるリスクなど、妊娠・出産のリスクも高くなる。また、男性も加齢とともに妊娠率が低下することが指摘されている。

年齢を重ねても若々しさを保つ人が増えていたり、高齢出産のニュースに触れるなどすると「いつでも子どもは持てる」と思う人もいるかもしれないが、年齢が上がると、妊娠・出産に関するリスクが上昇するとともに、妊娠しにくくなることが医学的にも明らかになってきている。

図表 2-3-23 女性の年齢の変化による精子の数の変化



学習 4

市

母子健康手帳

平成 年 月 日交付

保護者の氏名 _____

子の氏名 _____ (第 子)

No. _____

保護者の記録【1か月の頃】

年 月 日 で1か月になりました。

- 裸にする手足をよく動かしますか。 はい / いいえ
- お乳をよく飲みますか。 はい / いいえ
- 大きな音にビクッと手足を伸ばしたり、泣き出すことがありますか。 はい / いいえ
- おへそはかかれていますか。(じっくりしている時は医師にみてもらいましょう。) はい / いいえ
- 子育てについて気軽に相談できる人はいいますか。 はい / いいえ
- 子育てについて不安や困難を感じることはありますか。 いいえ/はい/何ともいえ

成長の様子、育児の心配、かかった病気、感想などを自由に記入しましょう。

1か月児健康診査

(年 月 日実施・ 月 日)

体重	身長
胸囲	頭囲
栄養状態	栄養法
健康・受診歴	
特記事項	
施設名又は担当者名	

☆次の健康診査までの記録(自宅で測定した身長・体重も記入しましょう)☆

年月日	月齢	体重(g)	身長(cm)	特記事項	施設名又は担当者名

6. 他教科等との関連

(1) 特別活動との関連

本単元の「結婚生活と健康」は、特別活動のホームルーム活動の内容項目(2)イ「男女相互の理解と協力」と関連付けて指導することが考えられる。例えば、題材を「家庭や地域社会における男女相互の理解と協力について考えよう」と設定し、本単元で身に付けた知識をもとにホームルーム内で話し合い、個人としての意思決定を経て、実践への意欲付けを図ることができる。

(2) 総合的な探究の時間との関連

総合的な探究の時間において例えば、生徒の興味・関心に基づく課題として、「生命の尊厳と医療や介護の現実(生命・医療)」を探究課題として設定し、横断的・総合的な学習として、保健での「結婚生活と健康」に関する学習内容との関連を図った課題の解決や探究活動を行うことが考えられる。

出典：改訂「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引
文部科学省

高等学校における展開例



第2学年「法的な主体となる私たち」(公民科)

1. 単元名 「法的な主体となる私たち」

2. 単元の目標

- (1) 法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。(知識及び技能)
現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠を持って表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 法や規範の意義及び役割について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

法や規範の意義及び役割については、法には国家と国民の間を規律する公法や、私人間を規律する私法などがあること、法は刑罰などによって国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけでなく、国民の活動を積極的に促進し、紛争を解決するなど、日常生活に密接に関連していることを理解できるようにする。また、法の支配を実現するために、法の一般性、明確性など、法が公正なルールとして備えるべき特質を理解し、法の適切さを考える視点を身に付けるとともに、公共的な空間を作る自立的な主体として、法の内容を吟味して、よりよいものにしていこうとする努力が大切であることを理解できるようにする。

その際、「法や道徳などの社会規範がそれぞれの役割を有していることや、法の役割の限界についても扱うこと」が必要であり、人々の間で社会規範として機能するものには、法以外にも、道徳や宗教などがあり、主体的な個人の内面規律や自立、個の確立を重視することを特色としていることを理解できるようにし、法と道徳や宗教の関係について留意して、法の役割の限界についても理解できるようにすることが大切である。



4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	法や規範の意義及び役割について、よりよい現代社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

5. 指導計画

時	◆学習内容	知	思	態	おもな学習活動
第1時	◆私たちと法	○			<p>○法とは何かについて理解するとともに、望ましい法の在り方について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法について考える時、法の目的は正当か目的を達成する手段は適切かを考えることが大切であることを理解する。 ・法の目的やルールをつくる時の条件を理解するとともに、法の評価と法の限界について考察する。 <div style="border: 1px solid #add8e6; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>教師が作ったクラスの新しいルールをいくつか生徒に提示し、女子生徒と男子生徒両方に受け入れられるものであるかどうか評価させ、法における性差の平等について考察する。</p> </div>
第2時	◆法と基本的人権	○			<p>○憲法の目的について理解し、自他の権利の衝突をどう調整するかについて、公共の福祉の視点を意識しながら学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法体系における憲法の目的や役割、日本国憲法が保障する基本的人権の概要について理解する。 ・権利の衝突があることに気付かせ、その調整について考察する。
第3時	◆自由に生きる権利と法・規範	○			<p>○自由権とそれに係る法令や制度について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法が保障する人身の自由、精神の自由、経済活動の自由及びそれらの権利を具体的に保障するための法令や制度について理解する。



第4時 (本時)	◆ 平等に生きる権利と法・規範		○	<p>○法の下での平等について理解するとともに、望ましい平等の在り方について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法が保障する平等権及び平等権を具体的に保障するための法令や制度について理解する。 ・法の平等に係る現実社会の諸課題について考察する。 <p>性的志向や性自認に対する偏見や差別があること、性別の変更及び結婚を可能にする法律（性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律）が制定されたことを理解する。</p> <p>民法における夫婦同姓を合憲とした最高裁判例を紹介した上で、選択的夫婦別氏（別姓）制度について考察する。</p>
第5時	◆ 安全で豊かに生きる権利と法・規範		○	<p>○社会権及び憲法に直接の規定がない新しい人権について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会権、環境権、プライバシーの権利、自己決定権について理解するとともに、これらの人権が登場した背景について考察する。
第6時	◆ 法をよりよいものにするための権利	○		<p>○世論や政治に参加し、法をよりよいものにするために、どのような人権が保障されているのかを学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参政権、国務請求権について理解するとともに、国民が主権者として正しい判断をするための知る権利について理解する。
第7時	◆ さまざまな契約と法	○		<p>○なぜ契約が生まれ、契約を守ることが大切なのかについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約の概念と契約自由の原則について理解する。 ・成年年齢の引下げに伴い、18歳になったら可能となる契約行為について理解するとともに、高校生の消費者被害の危険性について考察する。
第8時	◆ 消費者の権利と責任	○		<p>○消費者に関する法律は、契約においてどのような考え方を重視しているかについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者主権の概念と消費者を守る消費者基本法を中心とした法令や制度を理解する。
第9時	◆ 裁判所と司法		○	<p>○司法はなぜ必要なのか、権利の衝突を公正かつ慎重に調整するためにどのような制度があるのかについて理解するとともに、司法の限界について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司法権の独立及び日本の裁判制度について理解するとともに、裁判員制度の意義と課題について考察する。 ・統治行為論に基づく裁判所による憲法判断の回避の是非について考察する。
第10時	◆ 国民の司法参加		○	<p>○国民の司法参加について、日本及び海外の制度を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民事裁判及び刑事裁判、日本の裁判員制度について理解するとともに、裁判員制度の意義と課題について考察する。

6. 展開例(4/10)

(1) 本時の目標

- ・法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠を持って表現する。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	憲法が保障する平等権及び平等権を具体的に保障するための法令や制度について理解するとともに、法の平等に係る現実社会の諸課題について考察する。	
	社会において不平等だと考える制度や、これまで不平等だと感じた経験について考察させる。	○社会に残る不平等に気付かせ、学習に対する関心・意欲を高める。
	日本国憲法が保障する平等権について学習する。	○日本国憲法が保障する平等権の内容について理解させる。
	三菱樹脂訴訟の判例について学習する。	○日本国憲法が保障する平等権は、国家が国民に保障するものであり、私人間においては、必ずしも平等が保障されるわけではないことに気付かせる。
	性的志向や性自認に対する偏見や差別があること、性別の変更及び結婚を可能にする法律（性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律）が制定されたことを学習する。	○社会における性差別により深刻な悩みを抱えている人がいることに気付かせる。また性的マイノリティに対し、どのように接するべきなのかを考察させる。
民法における夫婦同姓を合憲とした最高裁判例を紹介した上で、選択的夫婦別氏（別姓）制度についてグループで考察させ、その是非について発表する。	○現代社会の諸課題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりさせる。 ※予想される意見：夫が妻の姓になることも可能なので、不公平とは言えない。結婚している意識を高めることができる。子どもが学校などで差別される。家族の一体感が高まる。女性の社会進出が促進される。結婚しても前の姓を通称として職場で利用すればよい。結婚する当事者の意思を尊重すべきだ。	

	<p>各グループの発表内容を踏まえて、選択的夫婦別氏（別姓）制度について改めて個人として考察させた上で、考察した内容をワークシートにまとめて提出する。</p> <p>夫婦同姓を規定している民法の改正に係る模擬投票を行う。</p> <p>※結果発表は、次時で行う。</p>	<p>◆【思考・判断力・表現】</p> <p>法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠を持って表現している。</p>
--	---	--

(3) 資料等

民法最高裁判例抜粋、民法 750 条、憲法 13 条、14 条 1 項、24 条 1 項及び 2 項

高等学校における展開例



第3学年「現代社会に生きる自己の課題」(倫理)

1. 単元名 「現代に生きる自己の課題」

2. 単元の目標

- (1) 個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方について理解する。(知識及び技能)
- (2) 自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 人間としての在り方生き方に関する事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

「公共」の大項目「A 公共の扉」の中項目「(1) 公共的な空間を作る私たち」の学習での自己を確立する基盤を培うという青年期の課題を踏まえ、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるために、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方についても触れながら、様々な人間の心の在り方についての理解を深め、他者と共によりよく生きる自己の人格形成に努める意欲を高めることができるようにすることをねらいとしている。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方について理解している。	自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	人間としての在り方生き方に関する事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成したりしようとしている。

5. 指導計画

時	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習活動 ・ 学習活動
第1時	◆人間とは何か		○		○人間の特徴について学習する。 ・先哲の思想を複数提示し、他の動物とは異なる人間の特徴について、自分なりの見方・考え方を働かせる。※ホモ・サピエンス、ホモ・ファールベル、ホモ・ルーデンス、ホモ・シンボリクス、ホモ・レリギオースス etc
第2時	◆青年期の意義と課題	○	○		○青年期の人生における意義及び青年期の特徴について、心身の変化に着目しながら学習する。 ・青年期の意義と各時代における青年期の変遷について学習し、近代まで存在しなかった青年期がなぜ登場したのかを理解する。 ・第二次性徴に伴う身体的変化について理解し、身体的及び心理的成長がもたらす青年期の特徴について、ムンクの「思春期」を導入として用い、グループワークで考察する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 身体の変化を正しい知識のもとに受け入れ、性をもつ自分の役割と責任について理解する。 </div>
第3時 (本時)	◆自我の発見と自己形成			○	○自我の目覚めにより、青年が自身を独立した人格であることを意識し始めることを学習する。 ・自我の目覚めにより、アイデンティティの確立が必要となることを理解する。 ・レヴィンの「マージナルマン」について紹介し、「大人」にも「子ども」にも所属できない青年期が若者の心を不安定にすることを説明した上で、これまでの生活において境界人として心の葛藤があった場面について生徒に話し合わせ、考察を深める。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 性に関するアイデンティティの確立も必要であること、性的マイノリティであるがゆえに、自身の帰属意識が動揺する場合もあることを理解する。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 人間の命は、全て平等に尊厳性を有しており、性別の違い等によって、その尊厳が侵されることはあってはならないこと、しかし、現実には様々な性に対する差別や犯罪が存在し、その解決が必要になっていることを理解する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・フロイトの精神分析学やレヴィンの葛藤について理解する。 ・自分とは何者かを考察し、望ましい人間としての在り方生き方について追究する。



第4時	◆パーソナリティの形成と生きがい		○	○パーソナリティの形成とアイデンティティの確立が青年期の課題であることを踏まえて、自身の「生きがい」について学習する。 ・パーソナリティの定義やマズローの欲求階層説などを理解する。 ・様々な価値感に基づく自身の生きがいについて考察する。
-----	------------------	--	---	--

6. 展開例 (3/4)

(1) 本時の目標

- ・人間としての在り方生き方に関する事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	自我の目覚めにより、アイデンティティの確立が必要となることを理解した上で、人間としての在り方生き方に関する事象や課題について主体的に追究しようとする。	
	自我の目覚めとアイデンティティの確立について学習する。	○アイデンティティを確立することがなぜ大事なのか、また、その確立に失敗した場合、どうなるのかを理解させる。
	レヴィンの「マージナルマン」について学習する。	○大人でも子どもでもないマージナルマン（境界人）としての存在が、青年を不安と孤独にさせること、その克服のためにアイデンティティの確立が必要であることを理解させる。
	性のアイデンティティについて学習する。	○身体の変化を正しい知識のもとに受け入れ、男女それぞれの性が持つ役割について理解させる。 ※性的マイノリティであるがゆえに、自身の性に関する帰属意識が動揺する事例を紹介する。
	2017年に性犯罪に関する刑法が110年ぶりに改正されたことにより、被害者の性別は問わないこと、懲役刑の下限が延長され厳罰化されたこと、被害者の告訴がなくても起訴できること、監護者による子どもへの性的虐待を処罰できるようになったことなどを紹介する。	○性別の違い等によって、性に対する様々な差別があること、また性に関する犯罪が存在することや性犯罪を処罰するために刑法が改正されたことについて理解させる。

自分とは何者かを考察させ、自身の特徴についてワークシートにまとめて提出させる。

◆【主体的に学習に取り組む態度】
人間としての在り方生き方に関する事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成したりしようとしている。



(3) 資料等

関係各新聞記事等